公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

会報　　第８号
発行日　平成 28 年 8 月 1 日 発行人　公益社団法人 日本技術士会群馬県支部 広報委員会

支部長メッセージ

会報第8号の発行にあたり

公益社団法人　日本技術士会　群馬県支部　支部長
眞下　寛治（機械部門）

英国のＥＵ離脱の決定により、円高や株安などの金融市場の変化が急激に進み日本経済へ影響を及ぼしています。今後、不確実なことによる投資等への影響、欧州の需要減少による輸出等への影響が心配されるところです。

今年は、日本の企業も前年までと違った傾向が出てきたところもあります。日本経済新聞社がまとめた 2016 年度の 4 月 30 日時点の設備投資動向調査によると、投資計画額は 2015 年実績比で製造業が 8.2%増、非製造業も 8.3%増ですが、製造業は新興国景気の減速などをにらみ、単なる増産から国内で生産効率を改善する設備更新や研究所新設といった質を高める投資を増やすという調査結果です。

トムソン・ロイターの選出した「トップ 100 グローバル・イノベーター2015」では、世界で最も革新的な企業 100 社中、日本企業の選出数は 2014 年に続き、世界最多の 40 社になっています。ソニー、富士通、オリンパス、トヨタなど 15 社が 5 年連続で受賞しています。このように日本企業は継続的に躍進し、イノベーションの創出と効果的なビジネス展開で、世界の技術革新を牽引しています。

平成 27 年度に改正された特許法が今年 4 月に施行されました。この改正では、職務発明規定（同法 35 条）が改正され、契約等により定めた場合には、特許を受ける権利が原始的に使用者等に帰属することになりました（同条第 3 項）。一方、契約等に定めのない場合には、従前どおり原始的に従業者等に帰属します。また、法人と発明者の間でのインセンティブ決定手続のガイドライン策定が法定化（同法第 6 項）され、今年に入り、そのガイドラインも告示されました。このガイドラインでは、同条第 5 項で例示される手続の適正な在り方、(1)相当の利益の内容を決定するための基準の策定に際して使用者等と従業者等との間で行われる協議の状況、(2)策定された当該基準の開示の状況、(3)相当の利益の内容の決定について行われる従業者等からの意見の聴取の状況、を明示しています。

国内は、海外進出等により厳しい状況が続いていますが、日本は資源がない国

ですから、技術開発をして行かなければなりません。国も「ものづくり・商業・サービス新展開補助金」など、中小企業の支援に力を入れております。

技術士として益々活躍する場が増えていると思います。一緒に頑張って行きましょう。今後の群馬県支部の活動にご期待戴くと共に、皆様方からのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

第5回全体会合･第8回講演会報告

日　時：平成 28 年 7 月 22 日（金）　（13:00 より受付）
場　所：群馬産業技術センター　第１研修室
■全体会合　13:30～14:15
　　司会　（佐藤幹事）
　1　支部長挨拶　（眞下支部長）
　2　議　　事
　　(1) 平成 27 年度事業報告について
（１）役員会開催
　・平成 27 年度　第１回（平成 27 年 5 月 15 日）
　・同　　上　第２回（平成 27 年 7 月 24 日）
　・同　　上　第３回（平成 27 年 8 月 21 日）
　・同　　上　第４回（平成 27 年 9 月 18 日）
　・同　　上　第５回（平成 27 年 11 月 27 日）
　・同　　上　第６回（平成 28 年 3 月 11 日）
（２）主要開催行事(詳細は、群馬県支部ホームページ「活動状況」「行事報告」をご覧下さい。)
　■講演会Ⅰ「知財最前線」（平成 27 年 7 月 24 日）於：群馬産業技術センター
　　一般参加も含め 35 名の参加があった。
　　（１）演題「特許情報調査の基礎知識」
　　講師：大竹特許事務所　代表　弁理士　大竹　雅久（会員技術士（機械部門））
　　（２）演題「知財法令改正の最近話題－職務発明規定の改正、音などの商標－」
　　講師：群馬県発明協会　常務理事・事務局長　眞下寛治（会員技術士（機械部門））
　■講演会Ⅱ（平成 27 年 11 月 27 日）於：群馬産業技術センター
　　一般参加も含め 24 名の参加があった。
　　演題：「みなかみ町のバイオマス都市構想」
　　講師：NPO 法人　バイオマス産業社会ネットワーク　代表　竹林　征雄
　■講演会Ⅲ（平成 28 年 3 月 11 日）於：群馬産業技術センター
　　演題：「食品のリスクマネジメント」
　　講師：桐生大学短期大学部生活科学科　学科長・教授　高橋　淳子（会員技術士（上下水道、衛生工学、環境、総合技術監理部門））
　■見学会（平成 27 年 10 月 16 日）㈱アイチ・コーポレーション

工場現場見学会は、10 月 16 日に、㈱アイチ・コーポレーション　新治工場を見学した。一般参加も含め 30 名の参加があった。

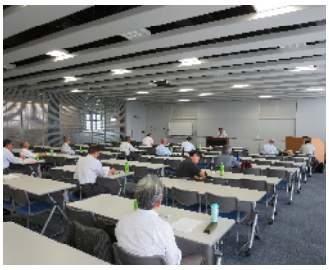
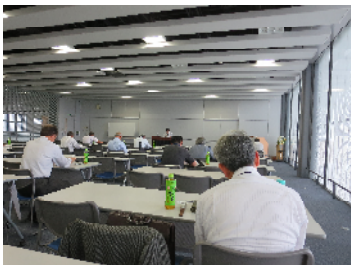
■相談会（平成 27 年 4 月 28 日）群馬県産業技術センター会議室

「ものづくり・商業・サービス革新補助金申請書のブラシュアップ」無料相談会を開催した。参加企業は 4 社で、5 名の支部役員技術士で対応した。

(2) 平成 27 年度収支報告について

(3) 平成 28 年度事業計画について

(4) 平成 28 年年度予算について

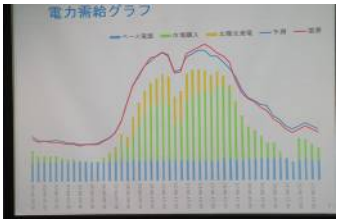
■講演会　15:15～16:15

・演題：「防災の視点で考える電力改革と公共施設の在り方」

・講師：田村　裕美　様　技術士（建設部門）、（一社）ソーシャルテクニカ　代表

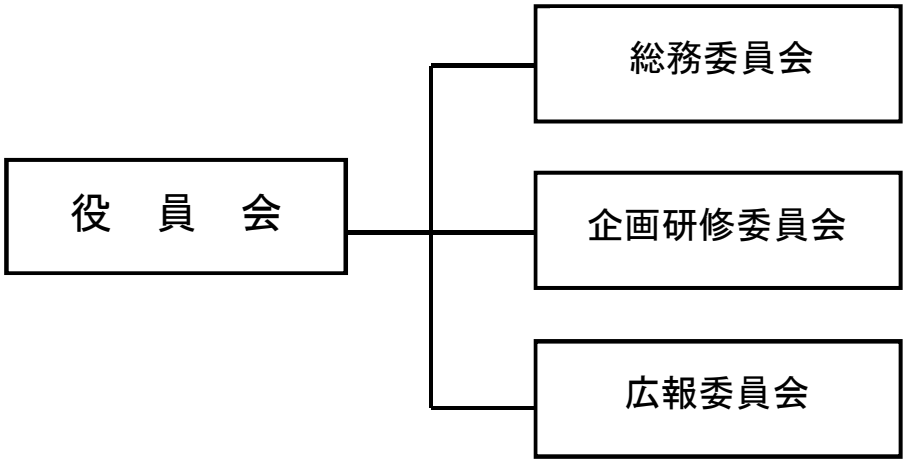
■懇親会：16:30～17:15　（第 1 研修室にて。ノンアルコール）

講演内容：技術士会員による東日本大震災における復旧・復興への取組み、過去 5 年間の激甚災害の年月・災害名・主な被災地、居住地域のハザードマップの確認、東京防災の事例、災害伝言板、日本の災害法体系。　電力自由化の歴史、電力システム、電気事業者、デマンドリスポンス、電力の供給と需要、一次エネルギー国内供給および電力化率の推移。公共施設の現状、公共施設数、公共施設の年度別整備床面積、人口推移、公共施設の将来の更新費用推計、公共施設等総合管理計画に求められること。防災については準備の重要性、電力システムについては、エネルギー問題の中で、その現状について説明され、極めて有益な講演でした。



平成 28 年度群馬県支部組織運営体制について

会員数　正会員 101 名　準会員 38 名　計 139 名（平成 28 年 4 月末現在）



（２）幹事名簿並びに所属委員会名

氏　名	部　門	役職名・委員会名
石塚　省吾	建設	会計幹事
大竹　雅久	機械	幹事、企画研修委員長
大谷　恵	機械	幹事、広報委員
大山　健一	機械	幹事、総務委員
加藤　洋	機械、経営工学、総合技術監理	副支部長、事務局
鎌腰雄一郎	機械	幹事、企画研修委員
佐藤　孝史	上下水道、建設、衛生工学、総合技術監理	幹事、総務委員
樋口　邦弘	建設	会計幹事
福田　文彦	応用理学	幹事、企画研修委員
二川　真士	機械、総合技術監理	幹事、広報委員
辺見　勇	機械	幹事、広報委員長
眞下　寛治	機械、	支部長、総務委員長
松栄　準治	機械	幹事、企画研修委員
山本　政雄	上下水道、総合技術監理	副支部長、企画研修委員
14 名		

総務委員会通信

総務委員会だより

支部長・総務委員長　　眞下　寛治（機械部門）

総務委員会は、群馬県支部の総合的な窓口として支部運営に関する会計、会員宛の連絡報告、役員会の運営等を行うことを主な任務としています。

総務委員会は、支部長、加藤洋副支部長、山本政雄副支部長、大山健一幹事、佐藤孝史幹事の計４名で構成されます。現在の役員の任期は平成 29 年 6 月までとなります。群馬県支部は、「技術士の品位の保持、専門知識の向上を図り、かつ会員相互の連絡を密にし、地域に密着し、技術士業務の啓発、地域経済・産業の発達、福祉の増進に寄与する」ことを目的にしています。群馬県支部の活動を推進するために、２ヶ月毎に役員会が定期的に開催され、報告事項と審議事項に分けて会議を行っています。平成 28 年 4 月末の群馬県支部の正会員は 101 名、準会員 38 名で計 139 名（3.0%増）となっています。

（公社）発明協会では創立 110 周年を記念して「戦後日本のイノベーション 100 選」の選定を進め、今年 6 月 15 日に最終選定結果を発表しました。投票トップ 10 は、内視鏡(1950)、インスタントラーメン(1958)、マンガ・アニメ(1963)、新幹線(1964)、トヨタ生産方式(1970)、ウォークマン(1979)、ウォシュレット(1980)、家庭用ゲーム機・ゲームソフト(1983)、発光ダイオード(1993)、ハイブリッド車(1997)です。いずれも世界を牽引したものであり、将来のイノベーションの架け橋となることも期待されます。

CPD 定期審査が今年 2 月 12 日～2 月 25 日に実施されています。この審査の目的は、技術士 CPD 登録内容の質を担保することにより、日本技術士会の CPD 登録制度に対する社会からの信頼を確保することにあります。実施報告では、CPD 認定会員 702 名から 10%程度の無作為抽出した 74 名に対して実施され、「○」評価が 35 名（47.3%）、「△」評価が 26 名（35.1%）、「不適」が 13 名（17.6%）となっています。不適該当要件では、「過去 3 年間で 150CPD 時間以上の実績があること」が満たされていない者が 11 名で一番多くなっています。登録データの審査では、A（適正）69.1%、B（改善が必要）26.9%、C（不適）4.0%であり、前回定期検査の結果に比べて、A が 15%増、B が 8%減、C が 6%減という結果です。B 評価の指摘理由では、「記載内容が不十分」が全体の 85%を占め、その大半は講師名の記載不備です。C 評価の指摘理由では、「実時間で計上」が 35%を占めています。

総務委員会は会員や地域の皆様へ技術士会が役立つよう活動致しますので、宜しくお願い致します。

企画研修委員会だより

企画研修委員長　大竹　雅久（機械部門）

１．はじめに

平成 28 年度の企画研修委員会は、昨年度から引き続き私と、山本政雄副支部長、松栄準治幹事、福田文彦幹事及び鎌腰雄一郎幹事の計 5 名で運営しております。

多くの皆様に参加して戴ける行事を企画して行きたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

２．昨年度の活動の振り返り

平成 27 年度は、一般社団法人群馬県技術士会との共催事業も含めて以下に示す 5 回の事業を実施しました。

（1）平成 27 年 4 月 3 日　第 4 回無料相談会「ものづくり補助金」申請書のブラッシュアップ相談会

（2）平成 27 年 7 月 24 日　第 6 回 CPD 講演会「知財最前線」（全体会合と同時開催）

（3）平成 27 年 10 月 16 日　第 4 回 CPD 見学会「株式会社アイチコーポレーション様の新治工場」

（4）平成 27 年 11 月 27 日　（一社）群馬県技術士会と共催　第 1 回記念講演会「みなかみ町のバイオマス都市構想」

（5）平成 27 年 3 月 11 日　第 7 回 CPD 講演会「食品のリスクマネジメント」

３．本年度の活動

平成 28 年度は、以下の事業を企画しております（開催済含む）。

（1）平成 28 年 7 月 22 日　第 8 回 CPD 講演会「防災の視点で考える電力改革と公共施設の在り方」（全体会合と同時開催）

（2）平成 28 年 11 月 25 日　第 5 回 CPD 見学会「株式会社原田様の本社工場（予定）」

（3）平成 29 年 3 月 10 日　第 7 回 CPD 講演会「原子力発電環境整備機構様によるご講演（予定）」

上記（1）第 8 回 CPD 講演会は、既に開催済です。会員技術士（建設部門）で一般社団法人ソーシャルテクニカ代表の田村裕美様にご講演戴き、大変好評でした。

上記の他、（一社）群馬県技術士会との共催事業も企画して行きます。会員の皆様の継続研鑽や相互交流の機会として大変有益であると思われます。是非ご参加下さい。

４．終わりに

会員の皆様には、各行事への積極的な参加をお願い致します。また、テーマ案のご提案や企画研修委員会への参画など歓迎致します。皆様のご協力をお願い致します。

広報委員会通信

広報委員会だより

広報委員長　辺見　勇(機械部門)

広報委員会の業務としては、「群馬県支部会報」を毎年1月及び全体会合開催後の8月に発行致します。今期の活動報告としては、平成28年3月11日に開催された第7回講演会として、桐生大学の高橋淳子様による「食品のリスクマネジメント」について報告しました(群馬県支部ホームページに掲載済)。また、群馬県支部ホームページでは、予定される事業の案内を実施しています。さらに、上記CPD事業については、日本技術士会ホームページ及び「月刊技術士」へ案内の掲載を本部に連絡しています。これらを通して、新技術など関連情報の普及に努めております。平成27年には、平成26年度の第1号の発行に続き、会員の絶大な協力を戴いて経験論文第2号を発行し、印刷した論文は群馬県庁初め、商工会・商工会議所、中小企業団体中央会、産業技術センター、産業支援機構、各大学・工専など関連の機関に配布致しました。今後については、執筆予定者数の動向により、発刊したいと考えております。

世界の状況を見ますと、米国では大統領選挙や、人種問題が出てきて、経済問題と共に状況を注視する必要があります。英国では EU 離脱の方向が出され、世界経済にかなりの影響が出て、特に日本は今までの円安の継続は困難となり、円高に戻ることが懸念されています。中国では東及び南シナ海への進出から、尖閣諸島問題が継続しています。

6月 24 日(金)には、東京ビッグサイトで開催された機械要素技術展に出かけて参りました。会場には、全国から出展があり、群馬県からは、群馬県産業支援機構はじめ二十数社の中小企業が出展されていました。プレス、ダイカスト、プラスチック射出成形、メッキ、スプリング、断熱材など、今までの技術をさらに磨きをかけた企業あり、また新しい要素を開発した企業など様々で、各企業が努力されている状況が伺われ、会場は盛況を極めていました。それぞれの企業の熱意に対して、技術士として、コンサルタントエンジニアとして、さらに努めて行きたいと感じました。なお、7月7日(木)には、群馬県北部地域の商工会議所から電話があり、企業から国土交通省の新技術情報システムの申請について指導を受けたいとの依頼があり、専門家派遣につき適切な対応をさせて戴きました。今後も、要請の在り次第、関係される方々に連絡致したく、ご協力をお願い致します。

また、このたびの7月 22 日の講演を含めて、前回にも女性技術士の講演会を開催させて戴きました。月刊技術士7月号では、奇しくも、女性技術士の活躍を期待して、「活躍する女性技術士」の特集が実施されています。群馬県支部に於いても、活躍されている状況を社会に広く知らせることができた事は、誠に喜ばしい限りであり、今後もこのような活動が発展して行くことを期待しております。

<<編集後記>>

2016 年は、ブラジルでリオデジャネイロ・オリンピックが開催されます。多少の混乱はあるにせよ、盛り上がりが期待されます。

4年後の 2020 年には、日本にとって2度目の東京オリンピックも控えています。1964 年（昭和 39 年）から 50 年余を過ぎてとなるこの開催には、また違う意義が感じられます。―― 東日本大震災からの復興を広く世界にアピールすること、ハード面では開催後の利用方法を考慮し、ソフト面でも安全・安心＋環境に優しい運営、新しい育成制度に基づいた選手たちの若い力の結集などです。

もう一つ、世界の人々に日本の生活を知ってもらう好機とも捉えられます。右肩上がりの若さ溢れる日本から、少し「大人」になった日本に触れてもらえれば有難いです。――1990 年代前半のバブル崩壊によって働き方が変化し、将来の展望もバラ色から多様な価値観に変わりつつあります。石油ショックから為替変動まで種々の変化に対応して来た日本人が、もう一度、自信を取り戻せたらと考えております。

【広報委員　大谷　恵　（機械部門）】

広報委員会

委員長	辺見　勇　（機械）
委員	二川　真士（機械）
委員	大谷（おおや）　恵（さとし）　（機械）